

事業名	生涯を通じた健康づくりへの支援
担当課	健康福祉部 健康づくり支援課

1 事業の概要

基本目標	Ⅲ	基本的な課題	7	施策の方向	①	施策番号	1
当初予算額(千円)	3,688			決算額(千円)	2,771		
事業の概要・目的	①生活習慣病の予備群・有病者を減少させるための特定健診・特定保健指導を効果的・効率的に実施できる人材の育成 ②企業等との連携により学童期の子どもと子どもを取り巻く大人に対して、正しい生活習慣の実践と定着化を図る。 ③健康相談、健康教室を実施するほか、年齢や性別等一人ひとりの違いに応じた保健・医療が受けられるよう、保健医療従事者等研修会を実施し、生涯を通じた健康づくりを推進する。 ④県民一人ひとりが自発的に健康づくりに取り組むよう働きかけるとともに、社会全体が取り組みを支援していく機運を醸成するための普及啓発						
数値目標など							
指標名等	特定健康診査の受診率(市町村国保)						
目標	70%(34年度)	実績	35.7%(24年度)				

2 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防を目的とする特定健診・特定保健指導の効果的な実施を支援するため、当該事業に従事する医療保険者等の保健師、管理栄養士等の専門職や事務職等を対象に研修会を9回(参加者473人)実施した。 企業等と連携して実施した「カンタン!!野菜たっぷり!!ヘルシー料理コンテスト」の入賞作品レシピをボランティア団体や県内飲食店等へ配付し、野菜摂取量の増加とよりよい生活習慣の実践に向けた情報発信を行った。(配付数計52,000部) 身体的、精神的な悩みを有する思春期以降の全年齢層に対する電話相談を男性186人、女性307人に対し実施、性別やライフステージに応じた健康教室(21回、参加者1,644人)を実施したほか、保健医療従事者等研修会を5回(参加者229人)を開催し、生涯を通じた健康づくりを推進した。 健康づくりに関する県民の意識を高め、自発的な健康づくりを促すため「健康ちば推進県民大会」(参加者270人)を開催した。

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

★視点1 企画への参画			
No.	チェック項目	チェック	説明
1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)	○	性差に配慮した内容にしている。
★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○	参加者や相談者等が利用しやすい開催日などに設定している。
5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	一部
6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
No.	チェック項目	チェック	説明
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか		

(2)改善点等

<改善した点>

研修は、対象者の性差、ライフステージに応じた内容で実施し、健康相談は性別で分けずに、相談を受ける側を研修により、思春期以降の全年齢層における男女の相談に応じられるよう強化した。

<課題・今後改善すべき点>

事業名	総合的な自殺対策の推進
担当課	健康福祉部 健康づくり支援課

1 事業の概要

基本目標	Ⅲ	基本的な課題	7	施策の方向	①	施策番号	3
当初予算額(千円)	108,294			決算額(千円)	87,064		
事業の概要・目的	<p>平成25年は、県内において1,215名の方が自殺により命を絶っていることを踏まえ、平成26年度は、市町村及び民間団体の協力を得て、相談事業や、人材養成事業などの自殺防止に関する各種事業に取り組んだ。</p> <p>また自殺対策についての啓発を図るため、交通機関に自殺予防ポスターの掲示や市町村等へ啓発冊子の配布を行ったほか、街頭で啓発品を配布した。</p> <p>相談支援に当たる人材の育成研修を実施したほか、自殺対策のための相談や啓発事業を実施する市町村や団体に対して、県から補助金を交付した。</p>						
数値目標など							
指標名等	自殺死亡率 (人口動態統計に基づく人口10万人当りの自殺者数)						
目標	減少を指 します	実績	(H26) 女性12.7 男性27.1				

2 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすい相談窓口の開設 夜間や休日などに対面相談を受けることができる窓口を開設した。 ・自殺対策普及啓発事業委託 自殺防止の対応についての啓発を図るため、民間のアイデアを活用し、委託事業として交通広告、ポスター、街頭配布誌による啓発事業を展開した。 ・相談支援に当たる人材の育成 県、市町村や関係機関の相談対応者に研修を実施した。 ・自殺対策緊急強化基金補助金 市町村及び民間団体が行う啓発、相談事業に対する補助金を交付した。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)	○	計画の策定等に当たり、自殺者は男性が多いことを配付資料等により説明した。
	★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明	
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○	相談窓口について、就業者が利用しやすいよう夜間及び休日に開設している。	
5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	窓口利用者についての性別データ有	
6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか			
実施結果・効果	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2) 改善点等

<改善した点>

- ①若年層への自殺防止の啓発として、街頭配布誌に広告を掲載した。
- ②医療や福祉等の専門職員を対象とした研修のほか、県庁の一般行政職員を対象としたゲートキーパー養成研修を開催した。

<課題・今後改善すべき点>

内閣府の発表によれば、平成26年の県内自殺者は前年と比較して人数で7人の減少にとどまった。依然として1,200人を超える方が、自らがけがえのない命を絶っている。今後も、効果的な自殺対策を講じ、男女に関係なく自殺者を減少させてまいりたい。

事業名	総合的ながん対策の推進
担当課	健康福祉部 健康づくり支援課

1 事業の概要

基本目標	Ⅲ	基本的な課題	7	施策の方向	①	施策番号	4
当初予算額(千円)	188,574			決算額(千円)	186,596		
事業の概要・目的	がん対策に係る普及啓発を中心に県民、医療・福祉関係者、民間企業、行政が協力しながら、総合的・計画的にがん対策を推進します。						
数値目標など							
指標名等	がん検診の受診率						
目標	増加を目指します。	実績	女性大腸がんを除き、全体的に減少。 胃 女性32.2% 男性39.9% 肺 女性36.4% 男性42.8% 大腸 女性35.3% 男性36.0% 子宮 女性32.3% 乳 女性35.1%				

2 事業の実施結果

がん対策に係る普及啓発を中心に県民、医療・福祉関係者、民間企業、行政が協力しながら、総合的・計画的にがん対策を推進した。 ・がん予防展2回(延10,743人来場) ・がん講演会2回(546人参加) ・がん検診推進員育成講習会6回(253名受講) ・乳がん啓発ピンクリボンキャンペーン2回等

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

No.	チェック項目	チェック	説明
1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)	○	女性に多い乳がんの検診受診促進のためピンクリボンキャンペーンを実施。
★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○	予防展、講演会やキャンペーンを休日の日中に開催。
5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	参加者アンケートにより男女別データを収集している。
6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
No.	チェック項目	チェック	説明
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか		

(2) 改善点等

<p><改善した点> がん予防展では男女ともに広くがんの知識を深めていただくために、ショッピングモールや公共施設において様々な体験コーナーや、専門家による健康相談コーナー等を設け知識の普及に努めることができた。またがん講演会では、がん体験者の体験談を取り入れることで、男女問わず、がん予防の大切さを身近に感じていただくことができた。</p> <p>市町村担当者研修会では、がん検診の重要性やがん検診の最新の知識に関する講演を通して、自治体における受診率の向上に向けた具体的な取組について理解を深めることができた。</p> <p><課題・今後改善すべき点> がん予防展は、男女問わず老若男女が集いがんに関する知識を身近に体験できる場となっていることから、専門的知識だけでなく、がん予防のための生活習慣の見直しの重要性を伝えていく。</p>
--